



応援したいまちづくりの担い手の皆さんと「まちづくりの今」を、インタビューを通し紹介します。

問 コミュニティ推進課コミュニティ推進係
☎72-2111



大淵 泰範さん

初代のぞみが丘小学校区まちづくり協議会会長。希みが丘区の区長をはじめ、さまざまな地域活動の中心を担い、自治会バス事業や地域のボランティア組織の発起人となった。現在は一線を退いたものの、顧問として関わる団体多数。

まちづくりに関わる
きっかけ

現役時代は都市銀行の行員で、退職後の平成16年に大野城市から小都市へ移住してきた。住んですぐに妻のひと声で区の役員になった。その後当時の区長から副区長を頼みこまれて、区長に。

区長になると地域の困り事はもちろん、隣近所のもめ事まで、さまざまな相談が入ってきた。外交をしていた銀行員時代の肩書が相談係だったこともあるのかもと今になって思う。小郡でゆっくり暮らすつもりが、振りかえるというんなことをやってきたなあ。

自分が始めたこと

一つは、犬の散歩のついでに清掃活動をする「ペットオーナーの会」。あるとき、犬の糞に関する相談が届いた。犬の飼い主の大半はマナーを守っているにも関わらず、糞があることで「全員マナーが悪い」と思われるのはおかしい、何とかしたいとこの活動の発起人になった。2か月に1回の朝から始まる活動は、20組程の協力者と共にスタートして、今も続いている。希

みが丘区には、ほとんど犬の糞は落ちてないはずだよ。

もう一つが、竹切りボランティアの「勝負坂公園を守る会」の発足。これも「公園の竹藪から白アリがでた。どうにかしてほしい」という相談からだった。仲間と一緒に、増えすぎた竹を伐採し整えた。今なお「住宅街にある里山」をつくる活動として、仲間たちが続けてくれている。

いちばん大変だったこと

「自治会バス」の立ち上げは本当に苦労した。平成21年に地域を走っていた民間路線バスの撤退が決まり、住民から「買い物に行けない」「病院に入院できない」などの声が届いた。私も何とかしたい一心で、同じ校区の当時美鈴が丘区の区長だった秋田さんたちと一緒に、市のコミュニティバス延長を求める署名を集めたが難しく、いろんな策を考えた。

そんな中、近くの商業施設ベレッサのオーナーから7人乗り車両の寄付の申出があり、それを機にタクシー会社との提携した取組を検討したが、あと一歩で破談になった。2年間で思いつく手は尽くしたが、ついに追い込まれてしまった。

乗り越えられた要因

本当に切羽詰まり、陸運局に頼ると大切なヒントをくれた。それは「無償で運行すること」「市役所と協働して安全を担保すること」。それから一気に動きだした。その2つを整え、ボランティア運転手を募集。13人も住民が手を挙げてくれ、手作りの自治会バス運行がついに実現した。

車両を提供してくれたベレッサ、助言をくれた陸運局、支援を決めてくれた市役所、協力に手を挙げてくれた地域のボランティア、みんなの思いとタイミングが結集し、2年越しの願いがやっと叶った。



勝負坂公園を守る会

勝負坂公園を守る会の一場面。80歳を過ぎても現場主義を貫いてきた大淵さん。

これまでを振り返ってみて

私は銀行員時代から、まず人から話を聞いたら、現場を知って、自らやってみることを選んできた。それは地域活動でも一緒で、そうやって仲間を増やししながら、いろんなことを一緒に乗り越えてきた。これまでの経験から、一生懸命ひた向きに考えて行動すると、仲間と運に恵まれるもので、何とかなるもんだよ。

どの取組も私が代表を離れても続いているということは、結構、地域の役に立つことをしてきたんじゃないかな。

2年前にまちづくり協議会の会長を退いてからは、月数回のゴルフをするくらいでゆっくり暮らしているけど、今でも相談されたら、時間と体が許す限り手伝うよ。ただ、もう88歳になるんだけどね(笑)



自治会バスベレッサ号

月～土曜の午前中に運行。希みが丘校区の人なら誰でも無料で乗車可能。平成23年から今まで、7万人を超える人が利用しています。